

心ここにあらざれば・・・心は正しく

(平成27年度修了式 校長式辞より)

みなさんおはようございます。

早いもので、今日が平成27年度の最終日、修了式となりました。

皆さんにとってこの一年は、どんな一年だったでしょうか。

今日の最終日にこの一年を振り返ることは意味あること、一緒にこれまでのこと、これからこと、少し考えてみましょう。

まず、本荘高校としてはよく頑張ったと思います。

皆さんには、右文尚武のもと、取り組んでいただきましたが、右分の方は、後で進路からあると思いますので、そちらで聞いてもらいますが、卒業生は本当によく健闘しました。みんなにも是非続いてもらいたいほどです。

尚武の方は、先ほどの賞状伝達にもありましたし、今、ボート、柔道部が全国大会真っ只中、卓球部もまもなく全国大会へ出発、放送部も来年度ですが、全国大会出場決定、というように、こちらもよく頑張ってくれました。学校として、とても感謝しております。

翻って、個人としては、どうだったのか。4月に「有志竟成によって人は成長する」とお話ししましたが、皆さんにとって成長はあったでしょうか。

成長とは変化、チェンジ(change、1つめのC)です。

「〇〇ができるようになった。」「〇〇が分かるようになった」

こんな風に具体的にいえることができればいいのですが、どうでしょう。

ところで、成長するにはチャンス(chance、2つめのC)が必要です。チャンスとは上手にその機会・好機、あるいは言葉を捉える、指導や教えを受け止める、とにかく能動的に外部からの働きかけを自分のためになることと捉え、利用する能力のことです。

これは、実はとても難しい能力です。実際、多くの人が知らないうちに数多くのチャンスを逃しているのです(ギリシャ神話に出てくるチャンスの神様カイロスのお話、覚えていますか)。例えば、

人の話を一緒に聞いても、同じように受け止めているかどうかは、分かりません。例え、同じ話を聞いて、Aさんは気付いたけど、Bさんは気付かない、届かないということがあります。同じプレーを見ても、すごいプレーだ。おれもマスターしたい、できるようになろうと目に焼き付ける人がいれば、ただの平凡なプレーとして目の前を通り過ぎていく、などです。その差は一体、何なのでしょう。

これについてこんな話があります。中国の四書の一つ、「大学」という本の中一節(伝七章)ですが、

『心不在焉、視而不見、聴而不聞、食而不知其味。』

「心焉(ここ)に在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえども其の味を知らず。」

心がここにはない状態では、見ても正しく物を見ることはできず、聞いても正しく聞くことはできず、食べても本当の味を知ることはできない。

という話です。

「心ここにあらざれば」とは、どういうことかということ、大学には「心が正しくないこと」とあります。

従って、心を正しくしていないと、見ても見えないし、聞いても聞こえないよ。だから、いつも心を正しくしていなさい。とっている。

そして、心が正しくないとはどういうことかという、具体的に、「怒り、おそれ、嫌悪、欲望、憂い、悩みや妬みなど」と説明しています。要は、心が正しくないとは、「あるべきものが心の中にあるはずなのに、それが無いとき」を心が正しくないというのです。

それでは、みなさんにとって、心が正しい、あるべきものがある心とはどういうことかという、それは

志があること、目標や夢あるいは向上したい、可能性を広げたい、と思う心だと私は思っています。

こうした気持ち・願いがあれば、見えないものが見え、聞こえない声を聞くことができるようになると言っているのです。

少し、今までを、振り返ってみてください。

先生や親、保護者、監督、コーチ、いろいろな方が、あなたの向上を願って、様々な指導をしてくれたと思います。その際、本当にそのことがあなたに伝わっていたか、言っている人の思いをきちんと汲み取って、それを自分の行動に結びつけていたか。どうでしょう。もしかしたら、「心ここにあらざれば」という場面が数多くあったのではないか。

あなたを動かすのは、「志」です。そして、この志をもっていることが「大学」のいう、「正しい心」なのです。

授業もそうです、心を正しくして、すなわち、志を持ち、目標や夢あるいは向上したい、可能性を広げたい、そういう気持ちで、授業中、見て、聞いてください。先生の話がすんなりと、自分の中に入ってきて、向上につながるのです。

ということで、4月の最初に言った「有志竟成(志有る者は事ついに成る)」に戻りました。志を持っていれば、心ここにあらずということはない。すなわち、自分を向上させることができるということです。

その上で、成功する秘訣、人生の勝負において大事なことを2つお話しして終わりにします。

自分の人生を叶えるにあたっての取り組み、準備についてですが、どれだけの量を準備し、どれだけ早く取り組んでも誰も文句は言いません。陸上の100m、200mなどはちょっとでも早いとフライングで失格ですが、人生の勝負にフライングはありません。つまり、人より早く始めてもよい、であれば、人より早く始めること。目的地を定め、人より先に歩き出すこと。これが第一の秘訣です。

(目的無く、歩く。どうしてもぶらぶら歩きになる、疲れるそして嫌になる。目的地がある、それが自分の願っている目的地ならば足取りも軽やか、疲れたってそれは心地よい疲れ、段々と楽しくなる、一心不乱に歩ける)

もう一つは、自分にとって少しだけ難しいことに立ち向かっていくこと。

(言い換えれば、チャレンジ challenge です。これが3つめのC)

陸上の走り高跳びの話です。自分が軽々と飛べる高さを何度練習でうまく飛んでも記録は伸びません。自分の飛べない高さを飛ぼうという練習をしないと記録は伸びないのです。陸上部顧問の櫻田先生に聞いたら、飛べない高さに(バーではなく)ゴムを張って練習するんだそうです。

勉強だって同じ。自分にとって難しいもの、困難なものをやらなきゃ、自

分のレベルを上げることはできません。難しいから、面倒くさいから、自分ができる問題だけ解いても、知識の整理にはなっても、学力・レベルの向上にはなりません。

とにかく、自分にはちょっと難しい、解くのに時間がかかる、負荷のかかる問題を解いていくことです。スポーツや武道、芸事もそうです。

辛い問題を解いて行くこと。難しい技術をマスターすること。苦勞のない、楽してのレベルアップ、向上はありません。向上には必ず苦勞が伴うものなのです。

以上、秘訣の2つをまとめれば、

「人生の勝負にフライングはない、人より早く始めること。

自分にとって少し難しいと思うものにチャレンジし続けること。

苦勞を伴わない向上はあり得ない。」

そう思って、これから精進してください。

短い春休みだけど新3年、新2年0学期として、4月から全力疾走するための助走期間として、大事に過ごしてください。

来年度が、これまで以上に、実り豊かな年となりますように期待して今年度最後の挨拶・式辞を締めくくります。

それでは、よい春休みをお過ごしください。

(3つのCを大事にせよ)

(完)